

会議録

会議の名称	第8回移動支援のあり方を考える勉強会
開催日時	平成31年4月22日（月）午後2時から4時5分まで
開催場所	柳沢第三市民集会所
出席者	<p>【委員】稲垣会長、土谷委員、鈴木委員、町田委員、井上委員、中静委員、井出様（菊地委員代理）、長谷川委員、島田委員、大安委員、金子委員、神崎委員</p> <p>【事務局】長塚都市計画課長、広瀬主査、坂本主査、亀井主事</p> <p>【関係部署】高齢者支援課、産業振興課、生活福祉課</p>
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 意向調査の実施について 3. 実証運行の協力事業者について 4. 実証実験期間及び事前登録の方法について 5. 実証運行の利用方法について 6. 移動販売について
会議資料の名称	<p>資料1：移動支援の実証実験【概要版】</p> <p>資料2：移動支援の実証実験に向けたアンケート調査（意向調査票）</p> <p>資料3：利用ガイド（案）</p> <p>資料4：移動支援（実証実験）ルート</p> <p>資料5：市報5月1日号折り込み資料</p> <p>参考資料：移動支援のあり方の検討に関する説明会におけるご意見、ご質問</p> <p>当日資料：勉強会における委員からの意見について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>1 開会</u></p> <p>○事務局： 昨年度より、皆様にご参加いただいたこの勉強会において、地域の実態や移動に関する課題など、たくさんのご意見をいただき検討した結果、6月の中旬より、タクシーを使った移動支援の実証実験を実施できるまでになった。ひとえに皆様のご協力によるところであり、本当にありがとうございます。</p> <p>ただ、今回ご提案させていただく実証実験については、地域のニーズや課題等について把握するものであり、今後その結果を踏まえながら、より利用しやすい方法について、さらに検討する必要があると考えている。</p> <p>委員の皆様には、勉強会や実際ご利用になった感想などをいただき、地域に適した移動支援のあり方について、本年度も皆様と一緒に考えていきたいので、引き続きよろしく申し上げます。</p> <p>○会 長： 西東京市において、現在この新しい移動支援を導入しようとして検討しているが、似たような問題を抱えている地域はたくさんある。世田谷区や武蔵野市の状況を見ても、道が狭く、従来型の大型の車両が入り込めない、そのような地域が広がっており、そこに住んでいる人にとっては、どのように移動したらよいかといった議論がなかなかしにくい状況にある。</p> <p>これまでは、100円や150円くらいの少し小さなバスを走らせて補完してい</p>	

たが、物理的に道が狭く運行できない場所がたくさんあり、西東京市においても同様の地域がある。そのなかで、どのように移動支援をしていくか、考えている団体は結構ある。

一方で、この地域のユニークなところは、これまでの7回の議論の中で、交通手段の話ばかりをしてきたわけではないということである。この地域の高齢の方、障害をお持ちの方や子育て世代の方々がどのように生活をして、どのように活躍していくのかといった視点からワークショップを重ねてきた。どうしてもこのような話をするときには、移動手段に偏った議論になりがちであるが、何のために移動支援やモビリティを導入するかといった根本的な議論ができていない事例が多い。この勉強会ではそのあたりをきちんと向き合って整理できたということが非常に大きいと思っている。

最近バリアフリーの議論でも、これまではスロープの設置などといったハードの議論ばかりが多かったため、議論が限界にきている状況である。人の支援や乗降の支援といった土木だけでなく、福祉のような多面的な議論がされるようになってきており、公共交通も同様な状況となっている。

この地域に住んでいる方たちが、生活の質を高めるために、公共交通だけでなく、コミュニティや外出支援のためのインセンティブなどといった様々な話がされ、西東京市ではいろいろな部署が参加してその話を聞いている。この勉強会は移動支援を検討するためのものであるが、本日は移動支援以外の話もあるようである。それは、今までの議論のひとつの成果であり、今後コミュニティや福祉など、横断的な議論がされていけばいいと考える。

本日は、実証実験に関する内容について、地域への説明等、最終確認をさせていただく。

2 意向調査の実施について

○事務局

【説明の要旨（資料1、2）】

- ・概要版と意向調査票を地域へ配布
- ・意向調査は5月10日まで
- ・回収後、結果を検証する。

○会 長： 実証実験については、今年の6月頃から3ヵ月程度であるが、それに先立ち、地域にポスティングを行い、協力をお願いしているとのことである。実証実験を始める前の調査である。

○委 員： この調査票の結果によって、時刻等を変更するのか。

○事務局： 今回の調査は、どのルートにどれくらいの利用があるか、事前に把握するものである。今回のご意見で時刻等を変更するものではない。

○委 員： 私の町内会の近くは、ルートとしてタクシーは通るが、乗り降りができないので、タクシーに乗るためにわざわざ遠くに行かなければならない。ただ、これまで全く移動手段がなかったところに新しく通るようになるのは前に進んでいるのではないかと話している。調査票の意見欄にそのような意見

は書くようお願いしている。

○委員： アンケートの配布はどのようにしたのか。

○事務局： 平成29年度に実施したアンケート調査にご協力いただいた自治会、町内会を中心をお願いしている。また、それ以外のバス停からも遠い、公共交通空白地域となっている場所については、職員がポスティングを行った。おおむね2,000世帯に配布した。

○会長： 全戸配布ではないということである。この地域は全部で何世帯くらいあるのか。

○事務局： 6,000世帯あり、そのうちの2,000世帯に配布した。

○会長： 私の認識も十分ではなかったが、お出かけ支援通信もそのような形のようなので、情報が一部の方のみとなっているようである。そのあたりは、今後の課題だと考える。

○委員： 昨年度から移動支援を考えるときに、対象者をある程度高齢者と決めていたと思っていたので、私たちの町内会ではできるだけ、お年寄りに回答してもらおうよう協力してもらっている。ただ、結構若い人も回答をしているようだ。アンケート調査のなかで、回答する方の年齢が若年層も書いてあるが、矛盾しているのではないか。

○事務局： 対象者は、高齢者に限っているわけではない。対象者の中で、妊娠中の方や世帯に3歳未満のお子様がいらっしゃる方もご利用いただきたいと考えている。ただ、今回の実証実験では、車両が既存のタクシーを利用することからドライバーを除いて4人しか乗れないこと、また車両の台数をたくさん確保できるわけではないので、これまでご説明してきた移動制約者に対象者を限定させていただいた。65歳以上の方だけが使えるということではない。

今後は、今回実証実験の結果を踏まえながら、現在の対象者以外にも範囲を広げるかを含め、移動支援については考えていきたい。

○会長： 移動支援の必要な方のなかに、高齢者の方もいるが、子育て世代の方でも利用される可能性はある。今回対象者を絞っているが、その対象者から漏れてしまった方のご意見も取れるようなら取ってみてもいいのではないかと思う。

○委員： アンケート調査は、利用する方の特性やどれくらい利用するかを把握するためのものとする。今後は需要量と供給量を考えていかなければならないが、需要量をどのように捉えてこの調査を考えたのか。

○事務局： どのくらいの方が利用を希望されているかを把握するための調査である。希望者の量で収入と経費の均衡を見るために実施するわけではない。

○委員： 利用量は、実態調査では分かるが、アンケートでは分かりにくいのではないかと思う。アンケート調査では、どちらかというとき定性的な面を把握するといったことだと思う。どのような人がどのくらいの時間に利用になるのかも含め、実証実験ということでもいいのか。

○事務局： はい。

○委員： 今回は、タクシーが2台しか走らないが、全然乗れないといった状況であれば、台数を増やすといったことも検討するのか。

○事務局： 車両の数もそうだが、車両の大きさについても、実際のご利用状況を勘案して、今後考えたい。

○委員： 料金について、今後変更することはありえるか。150円は例えば、通常のバスに近い200円に、逆に300円を200円にして、均一にしてはどうかといった意見もあった。タクシーを実際に呼んで利用するともっと高いので、300円でもいいと思う部分もあるが、はなバスが使えない地域に対しての支援なので、金額も近づけた方がいいとの意見もあった。

今後実証実験を実施した後に料金についても検討すると思うが、料金、それと乗る場所がネックになっているのではないかと考える。

○会長： 今のご意見は非常に貴重で、市内の他の地域との比較やバランスということである。ただ、はなバスのような大きな車両で運行間隔が決まっているやり方と動きやすい少し小さなタクシー車両を使ったやり方は全く違う方法なので、運賃や運用の仕方の違いがあることは一度整理したほうがいい。一度体験していただいて、それに対する忌憚のないご意見をいただいた上で、もう一度事務局で、全市的にどうかということを考えていく議論の材料となるものと思っている。

また、今回の調査は、利用しない方のご意見も聞くことにしており、それは非常に大切であると考え。利用しない方がどのような状況なのか把握するとともに、実証実験をやってみて、全く使わないといった状況を分析するときこのデータはなにかしら使えるのかもしれない。

アンケート調査の結果はどの段階で教えてくれるのか。実証実験はそのまま実施するのか。

○事務局： 実証実験については、予定通り実施する。調査の結果については、次の勉強会に提示できるようにしたい。

3. 実証運行の協力事業者について

○事務局 事業者の選定にあたっては、昨年度末に、庁内プロジェクトチームにおいて、実証実験の方向性を出した後、本年2月に、市内を拠点として営業するタクシー事業者4社に対し、市が移動支援の実証実験を行う旨お知らせした。その後、3月にご協力をいただけるかどうかの意向調査を行い、本日ご参加いただいている三幸自動車株式会社、大和交通保谷株式会社の2社よ

り、協力できる旨、ご連絡をいただいた。

3月の中旬には、市とタクシー事業者2社の3者間で協議を行った結果、事業予定者と決定し、3月の市議会において、平成31年度の当初予算が可決されたことを受け、今月の4月2日に正式に協力事業者として、それぞれ協定書を取り交わし、調印式を行った。

そのなかで、ご協力いただけるルートとして、三幸自動車株式会社が南町・向台町ルートと柳沢地域ルートを、大和交通保谷株式会社が西武柳沢駅ルートをご担当いただくことになった。

○会 長： こういった移動支援の運行については、事業者のご協力とご理解がないと成立しないので、地域のために今回は2社の方々に手を上げていただき、本当にありがたいことだと思う。

～ 両事業者からの挨拶 ～

○会 長： 事業者のご理解が得られなければできない事業が多くある中で、非常に地域のためにご協力をいただけるようで、とてもよいことだと思う。どうぞよろしくお願いします。

4 実証実験期間及び事前登録の方法について、5 実証運行の利用方法について

○事務局

【説明の要旨（資料3、4、5）】

- ・利用ガイドについては、地域説明会や利用者登録をした際に渡す予定
- ・お出かけ支援通信については、約6,000世帯に配布
- ・実施期間は、6月17日月曜日から9月28日土曜日まで
- ・運行ルートと運行曜日を説明
- ・利用登録の際には、住所と年齢等が確認できる運転免許証や健康保険証等が必要
- ・利用者カードの事前登録に関する臨時窓口の設置について説明
- ・乗車の際には利用者カードの番号を記録し、どのような利用がされているかを把握する予定
- ・農産物、鮮魚等の移動販売の実証実験について説明

○会 長： 実証実験を行うにあたり、地域の方に情報が行き渡らないということがないようにしたい。地域説明会も行うようであるが、お出かけ支援通信のような紙媒体でのお知らせも大切である。6,000世帯に配布ということであるが、どのような形で配られるのか。

○事務局： 市報に折り込み配布する。

○会 長： 今回が初めてのお出かけ支援通信になる方もいる。資料3、4はどのような方に配るのか。

○事務局： 利用者カードの登録や地域説明会の際にお配りする。また、集会所におくようにしたい。

- 委員： 資料3の3ページのお願いのところであるが、利用者の荷物が全員同じようなスーパーの袋だと間違えることがあるので、できればエコバックを推奨する記載があったほうがいい。トランクに入れた場合、間違ってしまうこともあるので考えてもらいたい。
- 委員： 今の話を聞くと雨のときは、自分で傘を入れる袋を用意した方がいいのではないかと思った。
- 委員： 今回運行曜日の説明が初めてあったと思うが、どのように決めたのか。
- 事務局： 発着地、経由地の施設の管理の問題があり、田無庁舎については土曜開庁もあるが基本的に平日とした。また、南町地区会館は木曜日が休館日となっていることから、今回の運行曜日を決めた。
- 委員： タクシー事業が2社なので、曜日を重ねることもできるのか。
- 事務局： 実証実験の利用状況を検証した上で、今後はそのあたりも検討したい。
- 委員： 乗った人がどのような意見があるか聞きたいと思った。例えば、降りるときに紙を渡して、次に利用するときに提出するとか、地区会館などに提出できるようにしたらどうか。
- 事務局： 2月の説明会においても同様のご意見をいただいたので、どのようにやるかを検討して、地域の皆様にもご案内したいと思う。
- 会長： 利用される方がどこで乗って、どこで降りるかといった調査と実際に乗った方がどのように感じたか調査することは絶対に必要だと思うので、考えてもらいたい。基本的な部分をまずはしっかりと聞けるような設計にしてもらいたい。
- 委員： 実証実験をやる際には、いろいろなデータを取らないといけない。タクシー事業者の方はそのあたりは承知していただけているのか。
- 委員： どの程度になるかにもよるが、例えば、降りる際にその場でドライバーに渡したいということになってしまうと、全体の運行に影響が出てしまう。降りる際にアンケートを配布して、地区会館などの施設に提出してもらった方がいいと思う。一定のルールは決めてもらいたい。
- 委員： 最初に出発するところが分からないが、待っている人がいなくても出発するのか。
- 委員： 出発はする。タクシーを2台走らせるところについては、反対側から同時に出発するイメージである。ただ、場合によっては、次の車両が追いついてしまうこともあるので、例えば、ルート上にある営業所で折り返すなどの方

法も検討が必要である。

- 委員： 西武柳沢駅ルートについては、基本的に駅に向かう方を優先的に考えており、集会所発とする予定である。
- 委員： 経由地を通過するときに既に4人が乗っていて乗れないといった状況のときは、基本的に次の車両を待ってもらうようになるが、追走するなどといった方法が取れるかもしれない。そのあたりも含めての実証実験だと思う。
- 委員： タクシー事業者の方で把握できるデータや実証実験前後でのアンケート、それから先ほどの実証実験中のアンケートなどがあれば、かなりデータとしてはとれるのではないかと思う。
- 委員： タクシー事業者としては、利用者カードの何番の人が乗ったか、また乗り残しがあつたかぐらいの把握となると思う。
- 事務局： 実証実験が終わった後に利用の有無に関わらず、利用者登録をしていただいた方にはアンケート調査を行う予定である。
- 委員： それは利用者登録の際になにかお知らせをするのか。
- 事務局： はい。
- 会長： これまでの議論は非常に重要で、取るべきデータとしては、3種類くらいあると考える。ひとつは、実際利用した方がどこで乗ってどこで降りたかという実績で、それは移動が実現できた人のデータであり、タクシー事業者の方でも把握できる。どのような方が乗ったのかは、市に登録情報があるので、それと合わせて分析ができる。
一方で、移動できなかった方のデータを取らないといけないというのが、ご指摘の内容かと思うが、どの方が乗れなかったかまでは無理かもしれないが、いつ、どの停留所で乗れない方が何人いたか程度であれば把握はできると思う。ただ、ドライバーも色々な業務をしているなかでの協力となるので、負担がかからないよう配慮が必要である。
もうひとつが、委員のご指摘もあつたようにアンケートも取らないといけないということである。先ほど説明のあつた意向調査については、まだ皆さんがご利用になってない状況での、想像での回答となる。そのため、必ずしも需要の調査になるわけではないと思うが、乗った方はもちろんそうであるが、乗らなかった方がどうして利用しなかったかも調査すべきと考える。
もうひとつ、より詳細なデータをとるようであれば、ドライブレコーダーの情報を使うのも一つかもしれない。ただ、そこまでできないのであれば、運行管理の情報を把握する必要があると思う。
どのようなデータをどの程度の精度で必要か、実証実験前に一度整理してもらいたい。
- 委員： 事業者が把握するデータには、時間の情報があるのか。

- 委員： 乗る場所が決まっているので、何時にだれがどこで乗ったかは把握できる。
- 委員： 乗れなかった人が次の便に乗ったかは分かるのか。
- 委員： 待っていた人がどこかに行ってしまうこともあるので、把握できないと思う。
- 会長： ドライバーの方がまずは安全第一で運行できる範囲の中でのご協力にはなると思う。
- 委員： 私もまずは安全に運転してもらうことが一番だと思うが、そのときにドライバーの方が気づいたことについても記録を残してもらえるとよいと思った。
- 会長： 先ほども意見のあった乗れなかった人の情報は、人が入れ替わっている可能性もあるので、難しいのではないかと思う。
- 委員： 利用者カードの申請は郵送可となっているが、その後のカードは発行する際に郵送するのか。
- 事務局： 郵送する。
- 委員： 乗車場所を示すような目印はどのようにするのか。
- 事務局： A3の大きさを乗車場所を示すサインを用意する予定である。ただ、バス停のようなポールを設置することは考えていない。施設やベンチが置けるところには、ベンチに貼ってできる限り分かるような形としたい。
- 委員： 番号札がないところには、どこから並ぶのかといった目印があるといいと思った。
- 会長： 地域の方同士で確認してほしい旨はいつ説明するのか。
- 事務局： 地域説明会や利用者登録の際にご案内できるようにしたいと考えている。
- 委員： バス事業者としては、乗るのか乗らないのか分からないときもあるので、できれば目印のようなものがあるのもいいと思う。
- 委員： バスではよくあるが、走って向かってくる人を待つか、待たないかもあると思う。ただ、今回の実証実験については、動き始めた場合には次の車両を待っていただくようにした方がいいと思う。

- 委員： このルートを実際に走ってみたか。
- 事務局： 基本的に片道15分程度とお話はしているが、実際に走ってみたところ、踏切による渋滞がなかった状況ではあるが、南町・向台町ルートと柳沢地域ルートは片道10分程度で走行できた。西武柳沢駅ルートは、青梅街道の状況にもよると思うが、片道5分程度で走行ができた。
実際には乗り降りの時間があるので、少し多めの時間で説明はしている。今回の実験では、通勤通学や午後5時台くらいの田無の踏切の遮断時間が長い時間帯は外しているので、比較的短い時間で運行ができると考えている。
- 委員： このルートの中で、保谷第二小学校の1年生が午後2時から4時までの間で帰宅の際に集団下校をしている。また、ルートも通学路にかかっているので心配している。また、デイサービスの送迎などもあるので、時間帯によっては配慮が必要なのではないかと思った。
- 事務局： 特に小学校などへは状況を確認し、学校や保護者等への通知についても考えたい。
- 委員： 利用者カードについては、ないと乗れないということでもいいのか。
- 事務局： 今回の実証実験については乗るためには必要である。
- 委員： 5月の臨時窓口の時期を逃すと市役所への申請となるのか。始まってから利用したいと思う人もいるだろうし、おそらくは地域包括支援センターの方で代理での申請をする必要があるのではないかと考えている。
- 事務局： 介護のサービスをご利用になっている方であれば、介護被保険者証の情報は地域包括支援センターでも分かっているので、申請手続きについてはもう少し事務局の方で考えたい。
- 会長： 全く可能性がないというわけではないと思うので、そのあたりは柔軟に対応してもらえればと思う。
- 委員： 実証実験の際には事務局の方でも見に行ったりするのか。
- 事務局： 利用の状況を実際に見たいので、見に行く予定である。
- 会長： ベンチの設置等は予定しているのか。
- 事務局： 資料4で説明すると、田無庁舎は施設なので座れる場所がある。田無柳沢児童センターは、自転車置き場の屋根の下にベンチを置く予定である。
- 委員： 自転車置き場にベンチを置くと自転車が停められないのではないか。

○事務局： 基本的に晴れているときは自転車置き場の外に置くが、雨のときは自転車が少ないので、移動しても大丈夫であると施設の管理者から聞いている。

南町地区会館は、施設の屋根になっているところのベンチを利用させてもらう予定である。また、こちらについては建物の中に入っても大丈夫なように番号札を用意する予定である。

柳沢第一児童遊園と新柳沢団地内公園は、屋根はない。児童遊園については、既に公園のベンチがあるが、移動支援用として設置ができないか調整中である。新柳沢団地内公園は、既に石のベンチのようなものがあるので設置の予定はない。

西武柳沢駅の南口については、ベンチを置く予定で調整しているが、屋根はない。柳沢第三市民集会所は、入り口の屋根になっている場所にベンチを置く予定である。

最終的には、説明会等でご案内できるようにしたいと考えている。

○委員： 施設等の中に入った場合、ドライバーは分かるのか。

○事務局： 乗車場所では、ドライバーの方に一度降りて、声をかけてもらえるよう調整している。

○委員： 西武柳沢駅の駅前広場はどのあたりが乗車場所になるのか。

○事務局： 当初、柳沢公民館、図書館の敷地を利用しようと考えていたが、元々都営の敷地内であり、東京都との調整がうまくつかなかった。その後、駅周辺で検討をしたが、西武柳沢駅の周辺がほとんど都営のため、難しいと判断した。

現在、西武柳沢駅南口には大和交通保谷のタクシーが乗り入れており、関東バスが3バース乗車場所を置いているので、事業者と調整するとともに、警察にも確認を行った結果、南口ロータリーの関東バスの東側のバス停と南側のバス停の間の空間を利用することにした。

○委員： 少し分かりづらいかもしれない。

○事務局： ご意見を踏まえ、お知らせの方法は考えたい。

6 移動販売について

○事務局

【説明の要旨（当日配布資料）】

- ・勉強会のワークショップで、市民委員からいただいた意見を整理した資料
- ・庁内横断的なプロジェクトチームを設置し、「移動」以外の地域の課題についても現在検討中
- ・今後、勉強会の方にも、その検討結果を報告する。
- ・移動販売については、産業振興課において実施の可否について検討
- ・今回の3ヵ月の移動支援の実証実験に併せ、地域内での移動販売について実証実験を行う。

○産業振興課（以下、「産業」と表記）

【説明の要旨（資料5）】

- ・南町地区会館の向かいにある南町第一児童遊園にて、めぐみ会の協力を得て、農産物を販売予定
- ・新柳沢団地の管理サービス事務所付近にて、地域の事業者である宝商店の協力を得て、鮮魚等の販売を予定
- ・地域貢献のためにと協力をいただいているので、多くの方に是非利用いただきたい。

○委員：非常に賛成である。ただ、移動販売を利用することで、移動支援のタクシーを使わなくなる人が出てくるのではないか。以前のアンケート調査の結果から、一週間の買物による外出回数を考えると移動支援の実証実験を利用する人が減ってしまうのではないか。

○委員：移動販売の利用者に、移動支援の利用者カードの番号を教えてもらうのはどうか。

○委員：その場合、移動支援と移動販売との関係を勘案しなければならないので、データの整理が難しいのではないか。

○委員：別々のデータとして捉えればいいのではないか。移動支援の登録者の利用がどのくらいいるかといったことで使えるのではないか。

○会長：アンケート調査の中に、そのあたりは入れてみればいいのか。また、移動支援は利用していないが、移動販売は利用したといった質問項目を入れればいいのかと思う。影響を完全に証明することはできないが、ある程度の影響については把握できると思う。

○委員：移動支援を利用しなくても農産物や鮮魚を地域の人たちが買いに行くことは考えられるので、全体的な活性にはなると思う。

○委員：「めぐみちゃん」の活用は考えているか。

○産業：夏場の炎天下を考えると、1時間であるが難しいと考えている。

○委員：夏の時期だが食品は大丈夫か。

○産業：鮮魚は移動販売用の冷凍車で来るが、ドアを開けたままの状態であると電気も使うので、なかなか長時間の稼働は難しく、1時間の設定とした。
また、販売員も炎天下での販売となるので、健康面からも1時間としている。

○委員：好評であれば、農産物や鮮魚に限らず、色々なものを販売してもらいたい。

- 産 業： 今回の移動販売は、事業者の多大なご協力も必要であることから今後の検討とさせていただきます。
- 委 員： この事業者は普段どのように事業を行っているのか。
- 産 業： 鮮魚の方は、市内外にお得意様があり、現在も移動販売を毎日行っている。今回は時間を調整いただき、空き時間にご協力いただく。
めぐみ会は、普通の農家の方で、農業の合間に、朝採っていただいた野菜などを販売いただく。
- 委 員： 市でファームカーを持っていると聞いたことがあるが。
- 産 業： 今回の販売については、農家の方がお持ちの軽自動車を使って販売する予定である。ファームカーを利用する場合、一度荷物を載せかえなければならぬため手間がかかってしまう。
- 委 員： 今回の移動販売は高齢者にとって非常に助かると思う。ただ、高齢者の方はお一人暮らしの方も多いため、少量にしてもらおうとか、持ち帰りしやすい大きさにしてもらえると大変助かると思う。
- 会 長： 皆さんからの情報提供がとても大切になるので、是非とも宣伝をお願いしたい。
本日は色々な観点からご意見をいただけた。実証実験をすることが重要なだけでなく、実証実験を通してしっかりと確認することが目的であるので、データの取り方などはもう一度事業者とも調整しながら整理してもらいたい。
- 事務局： 事業者のご協力により、6月17日からいよいよ実証運行を行うこととなった。5月には地域説明会を開催するとともに、利用者カードの事前登録も行う。皆様にも本日利用者カードをお配りしているので、是非ご利用いただき感想などをいただくとともに、地域に対しても情報提供をお願いしたい。
- 会 長： 以上をもって本日の勉強会を終了する。

以上